

令和 6 年度 歯科疾患の医療費及び受診状況
—う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害—

令和 8 年 7 月
健康保険組合連合会
政策部 調査分析グループ

【調査の概要】

本調査は、1,304 組合提供の「医科」・「歯科」の電算処理レセプトデータをもとに、令和 6 年度における歯科疾患（①う蝕、②歯肉炎・歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害）の医療費及び受診状況についてとりまとめたものです。

【調査結果のポイント】

1. 疾病分類別にみた歯科医療費

1) 歯科（消化器系疾患）計

- 医科と歯科を合わせた、疾病分類別医療費（計 3 兆 5,547 億円）の構成割合をみると、歯科（消化器系疾患）は全体の 16.0%（5,686 億円）と最も高い。
- 加入者 1 人当たり医療費は 2 万 2,235 円で、医療費 3 要素分解をみると、▽受診率（千人当たり件数）：1,843.5、▽1 件当たり日数：1.4 日、▽1 日当たり医療費：8,459 円—となっている。

2) 歯科 3 疾患

- 歯科（消化器系疾患）疾患別医療費（計 5,686 億円）の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が全体の 84.5%（4,806 億円）と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：7.7%（436 億円）、う蝕：7.4%（419 億円）。
- 加入者 1 人当たり医療費は、▽歯肉炎・歯周疾患：1 万 8,795 円、▽歯及び歯の支持組織の障害：1,705 円、▽う蝕：1,639 円—となっている。

2. 疾病分類別にみた歯科受診状況（年度平均）

1) 歯科（消化器系疾患）計

- 医科と歯科を合わせた、疾病分類別推計受診者数（計 1,788 万人）の構成割合をみると、歯科（消化器系疾患）は全体の 21.8%（390 万人）と最も高く、加入者 1,000 人当たり受診者数は 152.6 人となっている。

2) 歯科 3 疾患

- 歯科（消化器系疾患）疾患別推計受診者数（計 390 万人）の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が 85.6%（334 万人）と最も高く、次いで、う蝕：8.2%（32 万人）、歯及び歯の支持組織の障害 5.7%（22 万人）。
- 加入者 1,000 人当たり受診者数は、▽歯肉炎・歯周疾患：130.6 人、②う蝕：12.6 人、③歯及び歯の支持組織の障害：8.7 人—となっている。

本調査における留意点及び用語の定義

1. 統計上の歯科疾患及び疾病分類別医療費の取り扱い

- 調査対象の疾患は、診療区分「歯科」の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」及び「歯科 3 疾患」（①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害）としている。
- 「歯科」の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」のみを対象としているのは、疾病 19 分類別医療費のうち、「消化器系疾患」の医療費が全体の 97.3%を占め、かつ、①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害—の歯科主要 3 疾患が計上されていることによる。表記については、便宜上、「歯科：消化器系疾患」とした。
- なお、「歯科：消化器系疾患」の医療費構成割合は、▽う蝕：7.4%、▽歯肉炎及び歯周疾患：84.5%、▽歯及び歯の支持組織の障害：7.7%、▽その他：0.4%—となっており、主要 3 疾患で 99.6%を占める。
- 疾病分類別医療費等の集計方法については、公的医療統計と同様、レセプトに記載された 1 ないし複数の傷病名のうち、主傷病となる代表疾病に基づく 1 レセプト 1 傷病名により医療費等を集計している。なお、医療費には薬剤費は含まれていない。

2. 調査対象 1,304 組合の医療費データ及び加入者数

- 1,304 組合の「医科」及び「歯科」の電算処理レセプトデータを集計対象とした。
- また、対前年度伸び率の算出にあたっては、1,304 組合のうち、データ提供のあった令和 6 年度と 5 年度同一の 1,283 組合を集計対象としている。

令和 6 年度医療費：1,304 組合

	レセプト件数（件）	医療費総額（円）
医科	174,831,061	2,986,208,587,520
歯科：消化器系疾患	47,138,542	568,555,035,360

令和 6 年度 加入者数（年度平均）：1,304 組合

	加入者数（人）
合計	25,570,433
本人	15,474,725
家族	10,095,843

※ 被保険者数は、「合計」及び「男性」・「女性」の各加入者数を月平均により算出しているため、「男性」・「女性」の計が加入者「合計」とは一致しない。

対前年度伸び率：1,283 組合（令和 6 年度及び 5 年度同一組合）

	レセプト件数（件）		医療費総額（円）	
	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
医科	175,302,904	173,714,438	3,148,147,204,170	3,122,450,084,860
歯科：消化器系疾患	46,802,632	45,461,872	564,578,084,570	541,486,976,760

加入者数（年度平均）：1,283 組合（令和 6 年度及び 5 年度同一組合）

	加入者数（人）	
	令和 6 年度	令和 5 年度
合計	25,381,284	25,606,070
本人	15,372,631	15,265,476
家族	10,008,793	10,340,683

3. 75 歳以上の取り扱いについて

年齢階層区分において、75 歳以上の加入者は原則、後期高齢者医療制度の適用対象となるため、統計上存在しないが、▽診療年月日を診療年月の月末として計算するため、75 歳の誕生日を迎える月で、誕生日前に診療を受けた場合には「75 歳以上」に計上されるほか、▽外国に住所を有する 75 歳以上の加入者については制度上の取り扱いに基づき「75 歳以上」に計上している。

このため、診療区分別・疾病別の医療費総額及び推計受診者数は便宜上、75 歳以上を含め集計している。ただし、年齢階層区分の集計では、75 歳以上を集計対象とはせず 0 歳から 74 歳までとしており、合計には 75 歳以上を含んでいない。

4. 用語の定義

① 加入者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除したもの。

② 受診率（1,000 人当たりレセプト件数）

当該年度のレセプト件数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除し 1,000 倍したもの。

③ レセプト 1 件当たり日数

当該年度の診療実日数をレセプト件数で除したもの。

④ 1 日当たり医療費

当該年度の医療費を診療実日数で除したもの。

⑤ 加入者 1 人当たり医療費と医療費 3 要素分解

加入者 1 人当たり医療費は、受診率、1 件当たり日数、1 日当たり医療費の積に分解することができる。

(※加入者 1 人当たり医療費＝受診率×1 件当たり日数×1 日当たり医療費)

⑥ 推計受診者数（年度平均）

当該年度の各月の受診者数の和を 12 で除したもの。これは、組合提供の月別の医療費データは集計値であり、当該年度の集計にあたっては、各月の受診者数を累計した値を 12 で除した推計値を用いている。

⑦ 加入者 1,000 人当たり受診者数

当該年度の平均受診者数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したもの）で除し 1,000 倍したもの。

⑧ 受診者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均受診者数で除したもの。

なお、上記①の加入者 1 人当たり医療費は、加入者 1 人当たり受診者数、受診者 1 人当たり医療費に分解することができる。

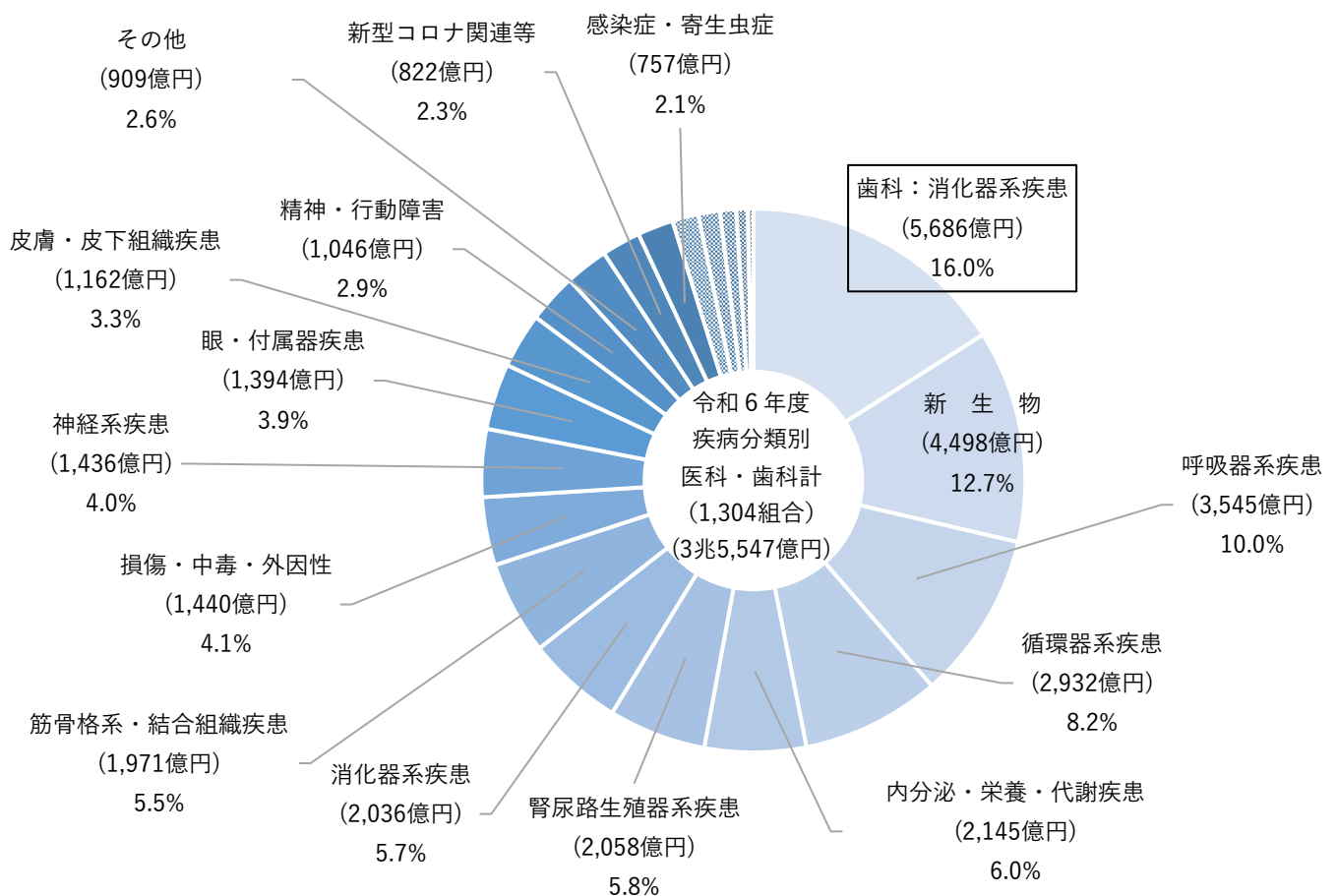
(※加入者 1 人当たり医療費＝加入者 1 人当たり受診者数×受診者 1 人当たり医療費)

1. 疾病 19 分類別にみた「歯科：消化器系疾患」医療費

(1) 医療費及び医療費構成割合

- 疾病分類別医療費（医科・歯科¹計）の構成割合をみると、「歯科：消化器系疾患」（以下、「歯科」という）は 16.0%（5,686 億円）と最も大きく、次いで、新生物：12.7%（4,498 億円）、呼吸器系疾患：10.0%（3,545 億円） — となっている。
- なお、対前年度伸び率（参考数値）は、医科・歯科計：1.3%、「歯科」：4.3%の増加 — となっている。

令和 6 年度 疾病分類別 医療費（医科・歯科計）及び構成割合



*) 端数処理の関係上、合計が一致しない。

【参考】 対前年度伸び率：1,283 組合ベース

	伸び率
疾病分類別医療費（医科・歯科計）	1.3%
歯科：消化器系疾患	4.3%

¹ 本調査における文中及び表中の「歯科」は、＜歯科＞の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」を指している（詳細は p.2「本調査における留意点及び用語の定義」1.を参照）。

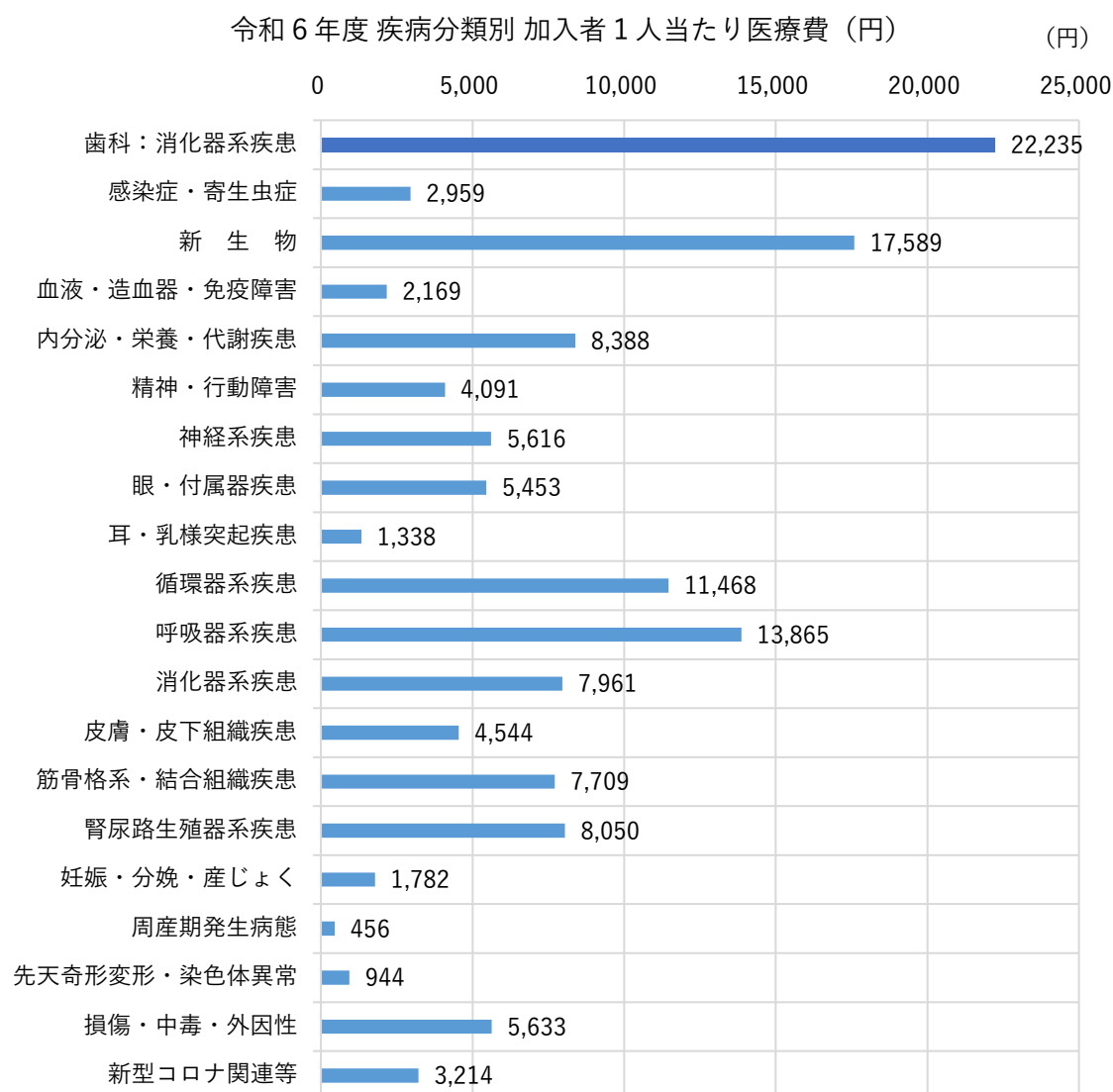
【参考】疾病分類別医療費構成割合（％）：前年度調査との比較

疾病分類名	令和 6 年度 (1,304 組合)	疾病分類名	(参考) 5 年度調査 (1,310 組合)
歯科：消化器系疾患	16.0	歯科：消化器系疾患	15.5
新 生 物	12.7	新生物	12.3
呼吸器系疾患	10.0	新型コロナ関連等	9.1
循環器系疾患	8.2	循環器系疾患	7.9
内分泌・栄養・代謝疾患	6.0	呼吸器系疾患	6.2
腎尿路生殖器系疾患	5.8	内分泌・栄養・代謝疾患	5.9
消化器系疾患	5.7	腎尿路生殖器系疾患	5.7
筋骨格系・結合組織疾患	5.5	消化器系疾患	5.6
損傷・中毒・外因性	4.1	筋骨格系・結合組織疾患	5.3
神経系疾患	4.0	眼・付属器疾患	3.8
眼・付属器疾患	3.9	損傷・中毒・外因性	3.8
皮膚・皮下組織疾患	3.3	神経系疾患	3.7
精神・行動障害	2.9	皮膚・皮下組織疾患	3.2
その他	2.6	精神・行動障害	2.8
新型コロナ関連等	2.3	その他	2.4
感染症・寄生虫症	2.1	感染症・寄生虫症	2.0
血液・造血器・免疫障害	1.6	血液・造血器・免疫障害	1.5
妊娠・分娩・産じょく	1.3	妊娠・分娩・産じょく	1.3
耳・乳様突起疾患	1.0	耳・乳様突起疾患	1.0
先天奇形変形・染色体異常	0.7	先天奇形変形・染色体異常	0.7
周産期発生病態	0.3	周産期発生病態	0.4

注) 円グラフ (p.5) 及び表中の「その他」は、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」である。

（２）加入者１人当たり医療費及び医療費３要素

- 疾病分類別にみると、「歯科」が２万 2,235 円と最も高く、次いで、新生物：１万 7,589 円、呼吸器系疾患：１万 3,865 円となっている。
- 「歯科」の加入者１人当たり医療費が高い要因について、医療費３要素分解からみると（p.8）、▽受診率（千人当たり件数）：1,843.5、▽１件当たり日数：1.4 日、▽１日当たり医療費：8,459 円となっており、他の疾患に比べ、受診率が極めて高いことによる。
- なお、対前年度伸び率（参考数値）（p.9）をみると、「歯科」は 5.4%の増加となっており、要因として、▽１件当たり日数は▲0.7%減少したが、▽受診率：5.3%、▽１日当たり医療費：0.3%—とそれぞれ増加したことによる。



注）疾病分類には、便宜上、「その他」（「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」）を除いている（以下、同じ）。

令和 6 年度 加入者 1 人当たり医療費及び 3 要素

疾病分類名	加入者 1 人当たり 医療費 (円)	受診率 (件/千人)	1 件当たり 日数 (日)	1 日当たり 医療費 (円)
歯科：消化器系疾患	22,235	1,843.5	1.4	8,459
感染症・寄生虫症	2,959	255.5	1.5	7,947
新 生 物	17,589	257.2	1.7	40,980
血液・造血器・免疫障害	2,169	30.6	1.6	43,394
内分泌・栄養・代謝疾患	8,388	522.9	1.2	13,523
精神・行動障害	4,091	341.4	1.5	7,816
神経系疾患	5,616	246.0	1.4	15,930
眼・付属器疾患	5,453	597.8	1.1	8,040
耳・乳様突起疾患	1,338	129.3	1.4	7,341
循環器系疾患	11,468	480.2	1.3	18,745
呼吸器系疾患	13,865	1450.4	1.3	7,126
消化器系疾患	7,961	313.6	1.4	18,408
皮膚・皮下組織疾患	4,544	694.5	1.2	5,335
筋骨格系・結合組織疾患	7,709	402.8	2.0	9,408
腎尿路生殖器系疾患	8,050	279.7	1.7	16,707
妊娠・分娩・産じょく	1,782	17.7	3.2	31,888
周産期発生病態	456	2.0	4.1	56,212
先天奇形変形・染色体異常	944	13.5	1.5	46,512
損傷・中毒・外因性	5,633	209.0	2.1	13,119
新型コロナ関連等	3,214	255.7	1.2	10,267

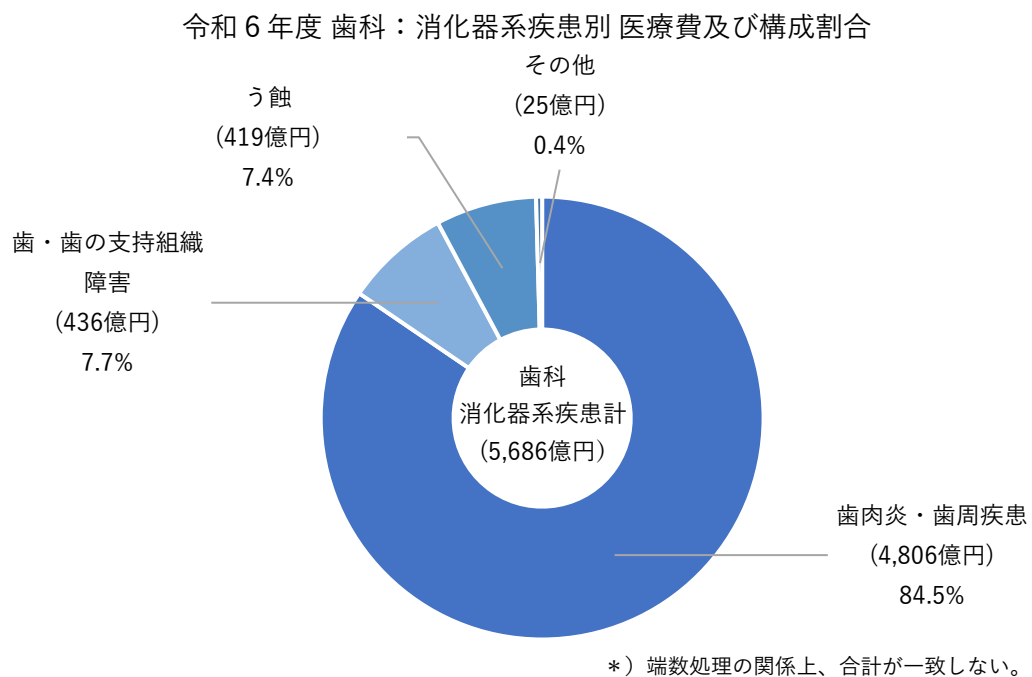
【参考】 令和 6 年度 対前年度伸び率（％）：1,283 組合ベース

疾病分類名	加入者 1 人当たり 医療費	受診率	1 件当たり 日数	1 日当たり 医療費
歯科：消化器系疾患	5.4	5.3	▲0.7	0.3
感染症・寄生虫症	8.7	8.8	▲0.7	0.8
新 生 物	3.2	3.5	▲0.6	0.5
血液・造血器・免疫障害	6.5	3.8	▲1.2	3.3
内分泌・栄養・代謝疾患	▲1.8	▲6.5	0.0	5.7
精神・行動障害	5.3	6.7	▲1.3	▲0.1
神経系疾患	10.6	4.8	▲0.7	6.0
眼・付属器疾患	3.2	2.0	0.0	1.3
耳・乳様突起疾患	3.1	2.9	0.0	0.3
循環器系疾患	5.4	9.8	▲1.6	▲2.8
呼吸器系疾患	11.2	13.2	1.5	▲3.3
消化器系疾患	3.7	3.8	0.0	▲0.3
皮膚・皮下組織疾患	5.4	2.5	0.0	2.7
筋骨格系・結合組織疾患	5.4	3.3	▲1.5	3.4
腎尿路生殖器系疾患	2.9	6.1	▲0.6	▲2.5
妊娠・分娩・産じょく	0.6	▲3.0	0.6	3.1
周産期発生病態	▲6.9	▲4.4	▲1.9	▲0.7
先天奇形変形・染色体異常	0.2	2.5	▲2.0	▲0.5
損傷・中毒・外因性	7.1	5.3	▲0.5	2.2
新型コロナ関連等	▲59.9	▲47.2	▲9.6	▲16.5

2. 歯科3疾患（う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害）の医療費

（1）医療費及び医療費構成割合

- 「歯科」の疾患別医療費構成割合をみると、歯肉炎及び歯周疾患が84.5%（4,806億円）と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：7.7%（436億円）、う蝕：7.4%（419億円）—となっている。
- 対前年度伸び率（参考数値）をみると、歯肉炎・歯周疾患が4.7%と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：3.1%、う蝕：0.6%—となっている。



令和6年度 医療費及び構成割合

	医療費 (円)	構成割合 (%)
歯科：消化器系疾患	568,555,035,360	100.0
う蝕	41,911,679,610	7.4
歯肉炎及び歯周疾患	480,595,936,950	84.5
歯及び歯の支持組織の障害	43,595,322,780	7.7

【参考】令和6年度 対前年度伸び率：1,283組合ベース

	伸び率
歯科：消化器系疾患	4.3%
う蝕	0.6%
歯肉炎・歯周疾患	4.7%
歯及び歯の支持組織の障害	3.1%

(2) 加入者 1 人当たり医療費及び 3 要素

- 歯科 3 疾患のうち、加入者 1 人当たり医療費が最も高いのは、①歯肉炎・歯周疾患の 1 万 8,795 円で、次いで、②歯及び歯の支持組織の障害：1,705 円、③う蝕：1,639 円—となっている。
- 歯肉炎・歯周疾患の加入者 1 人当たり医療費が高い要因について、医療費 3 要素分解からみると、受診率（千人当たり件数）：1,576.9、1 件当たり日数：1.4 日、1 日当たり医療費：8,466 円となっており、他の疾患に比べ受診率が極めて高くなっている。

令和 6 年度 加入者 1 人当たり医療費及び 3 要素

	加入者 1 人当たり 医療費(円)	受診率 (件/千人)	1 件当たり 日数(日)	1 日当たり 医療費(円)
う蝕	1,639	151.9	1.4	7,883
歯肉炎・歯周疾患	18,795	1,576.9	1.4	8,466
歯及び歯の支持組織の障害	1,705	106.7	1.8	8,981

(3) 加入者 1 人当たり医療費及び 3 要素の対前年度伸び率

- 歯肉炎・歯周疾患が 5.6%の増加と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：4.0%、う蝕：1.5%—となっている。
- 歯肉炎・歯周疾患の伸びの要因として、1 件当たり日数が▲ 2.1%減少した一方、受診率が 4.5%と大きく増加したほか、1 日当たり医療費が 3.4%増加した。

令和 6 年度 対前年度伸び率（%）：1,283 組合ベース

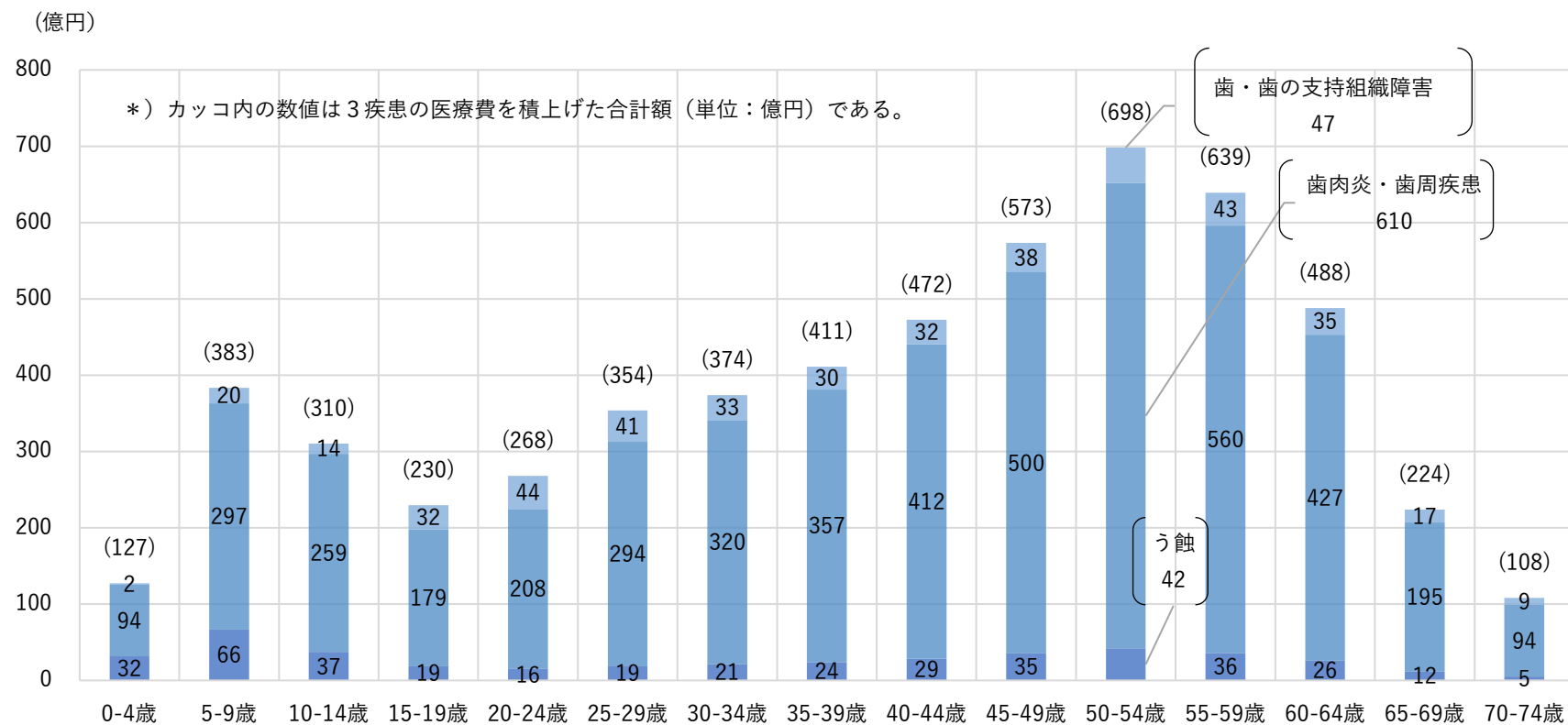
	加入者 1 人当たり 医療費	受診率	1 件当たり 日数	1 日当たり 医療費
う蝕	1.5	▲0.8	▲0.7	3.1
歯肉炎・歯周疾患	5.6	4.5	▲2.1	3.4
歯及び歯の支持組織の障害	4.0	1.3	▲1.7	4.8

(4) 年齢階層別にみた歯科3疾患医療費

1) 医療費総額

- 年齢階層別に歯科3疾患計の医療費をみると、50-54歳（698億円）が最も高く、次いで、55-59歳（639億円）、45-49歳（573億円）となっている。
- 総額が最も高い50-54歳の構成をみると、歯肉炎及び歯周疾患が610億円と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：47億円、う蝕：42億円となっている。

令和6年度 歯科3疾患 年齢階層別 医療費総額（単位：億円）

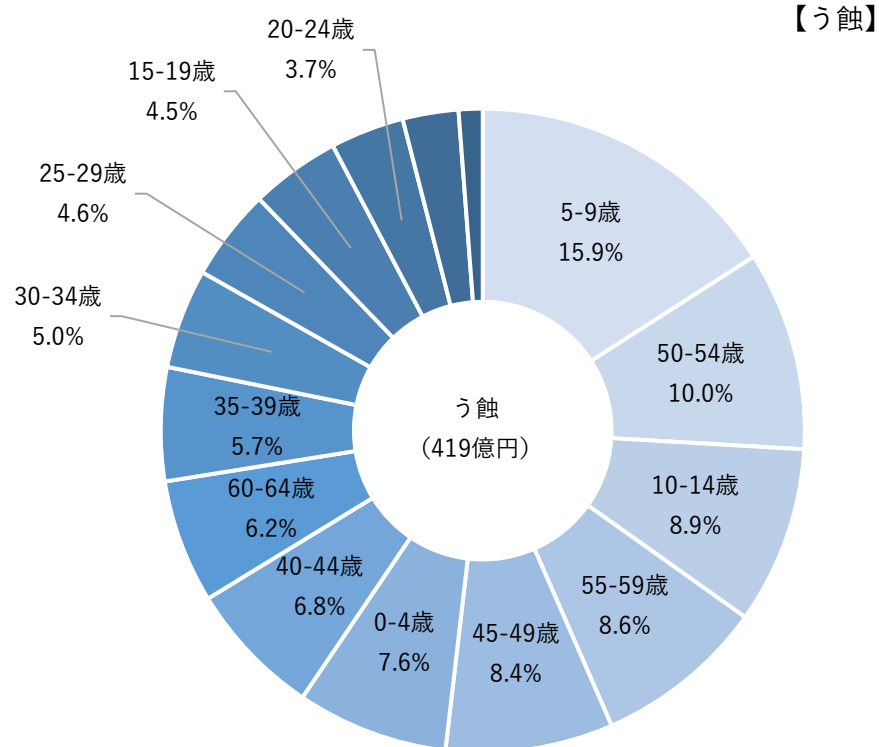


2) 医療費構成割合

① う蝕

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、5-9 歳が 15.9%と最も高く、次いで、50-54 歳：9.6%、10-14 歳：8.9%、55-59 歳：8.6% ーとなっており、乳幼児及び未就学児で全体の 3 割を占める。

令和 6 年度 年齢階層別 医療費及び構成割合



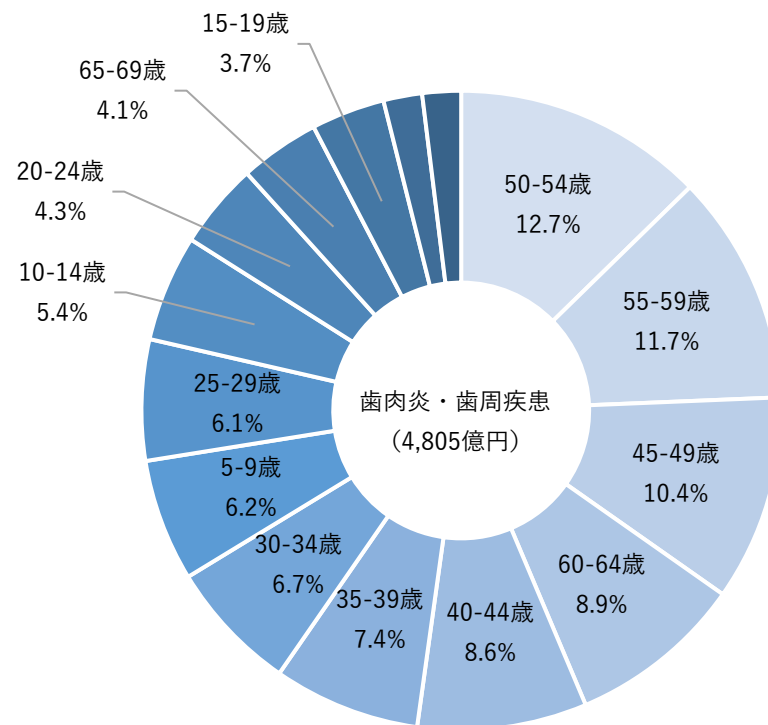
	医療費総額 (円)	構成割合 (%)
70-74 歳	511,730,600	1.2
65-69 歳	1,155,473,140	2.8
60-64 歳	2,612,385,970	6.2
55-59 歳	3,602,314,570	8.6
50-54 歳	4,205,274,790	10.0
45-49 歳	3,535,428,880	8.4
40-44 歳	2,850,036,950	6.8
35-39 歳	2,406,644,920	5.7
30-34 歳	2,109,402,090	5.0
25-29 歳	1,933,353,290	4.6
20-24 歳	1,553,127,320	3.7
15-19 歳	1,870,670,280	4.5
10-14 歳	3,742,775,710	8.9
5-9 歳	6,647,040,790	15.9
0-4 歳	3,172,785,380	7.6
計	41,908,444,680	100.0

*) 端数処理の関係上、合計が一致しない (以下、同じ)。

② 歯肉炎・歯周疾患

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、50-54 歳が 12.7%と最も高く、次いで、55-59 歳：11.7%、45-49 歳：10.4%—となっており、40～50 歳台で全体の 4 割を占める。

令和 6 年度 年齢階層別 医療費及び構成割合
【歯肉炎及び歯周疾患】



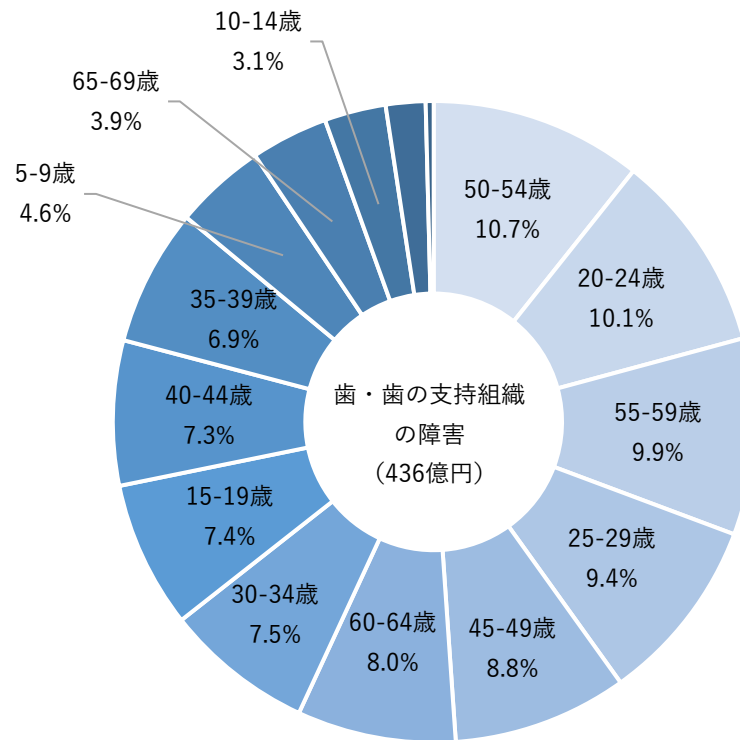
	医療費総額（円）	構成割合（%）
70-74 歳	9,428,809,070	2.0
65-69 歳	19,531,230,840	4.1
60-64 歳	42,693,291,620	8.9
55-59 歳	55,984,176,120	11.7
50-54 歳	60,954,199,400	12.7
45-49 歳	49,971,770,150	10.4
40-44 歳	41,195,314,620	8.6
35-39 歳	35,701,194,020	7.4
30-34 歳	32,015,062,600	6.7
25-29 歳	29,351,044,100	6.1
20-24 歳	20,839,739,410	4.3
15-19 歳	17,896,046,910	3.7
10-14 歳	25,937,758,670	5.4
5-9 歳	29,656,758,260	6.2
0-4 歳	9,383,563,220	2.0
計	480,539,959,010	100.0

③ 歯及び歯の支持組織の障害

- 医療費構成割合を年齢階層別にみると、50-54 歳が 10.7%と最も高く、次いで、20-24 歳：10.1%、55-59 歳：9.9%—となっており、50 歳台及び 20 歳台が全体の 4 割を占めている。

令和 6 年度 年齢階層別 医療費及び構成割合

【歯及び歯の支持組織の障害】



	医療費総額 (円)	構成割合 (%)
70-74 歳	872,043,910	2.0
65-69 歳	1,697,485,980	3.9
60-64 歳	3,478,482,940	8.0
55-59 歳	4,311,927,540	9.9
50-54 歳	4,676,157,350	10.7
45-49 歳	3,825,771,140	8.8
40-44 歳	3,199,863,980	7.3
35-39 歳	3,001,798,160	6.9
30-34 歳	3,267,253,690	7.5
25-29 歳	4,079,791,390	9.4
20-24 歳	4,424,233,640	10.1
15-19 歳	3,213,920,320	7.4
10-14 歳	1,351,978,530	3.1
5-9 歳	2,025,138,630	4.6
0-4 歳	163,136,010	0.4
計	43,588,983,210	100.0

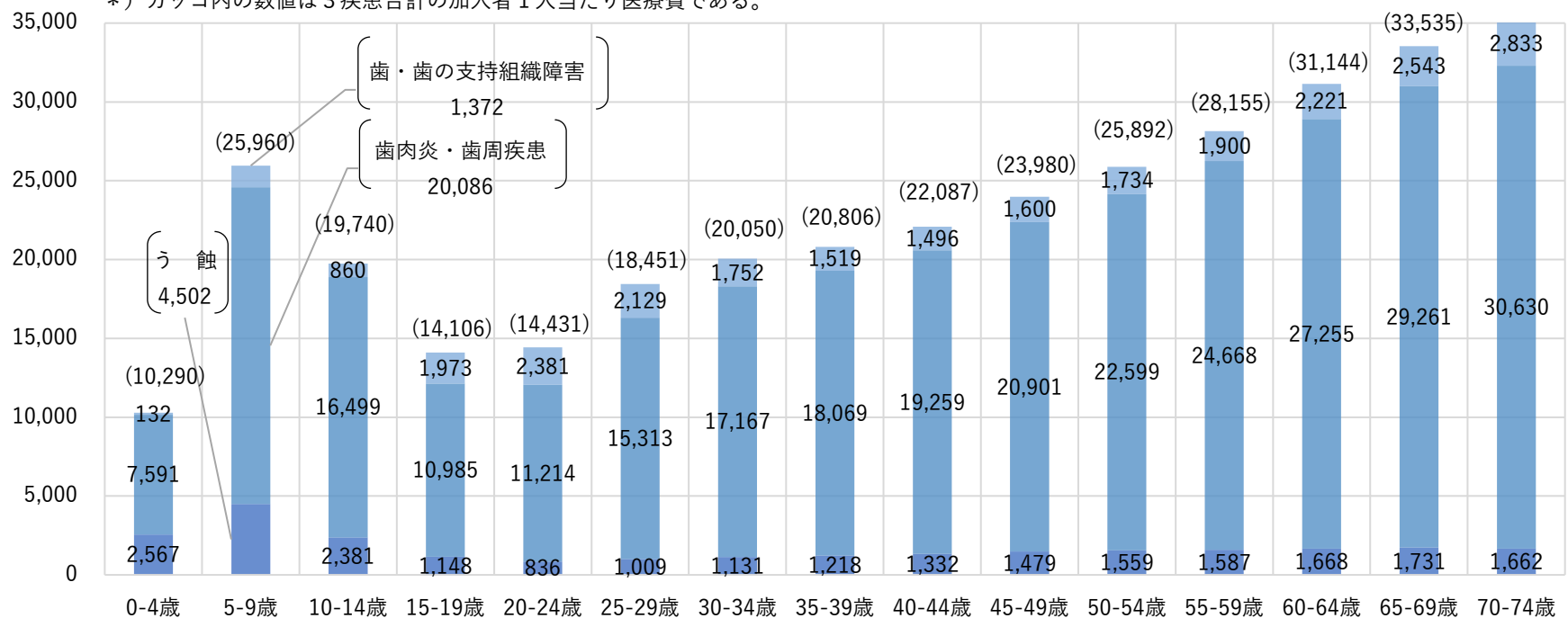
3) 加入者1人当たり医療費

- 年齢層別に歯科3疾患計の加入者1人当たり医療費をみると、5-9歳、10-14歳で高く、15歳以降は年齢とともに高くなる。
- 年齢階層別医療費構成割合をみると（p.17）、どの年齢階層でも歯肉炎・歯周疾患の割合が7割以上を占め、う蝕の割合は0-14歳で高い。歯及び歯の支持組織の割合は15-29歳でとくに高く、その要因を「社会医療行為別統計（令和6年8月審査分）」（厚生労働省）の「歯科」診療行為別点数を年齢階層別（p.18）でみると、15-39歳で「歯科矯正」の割合が最も高いことがわかる。

（円）

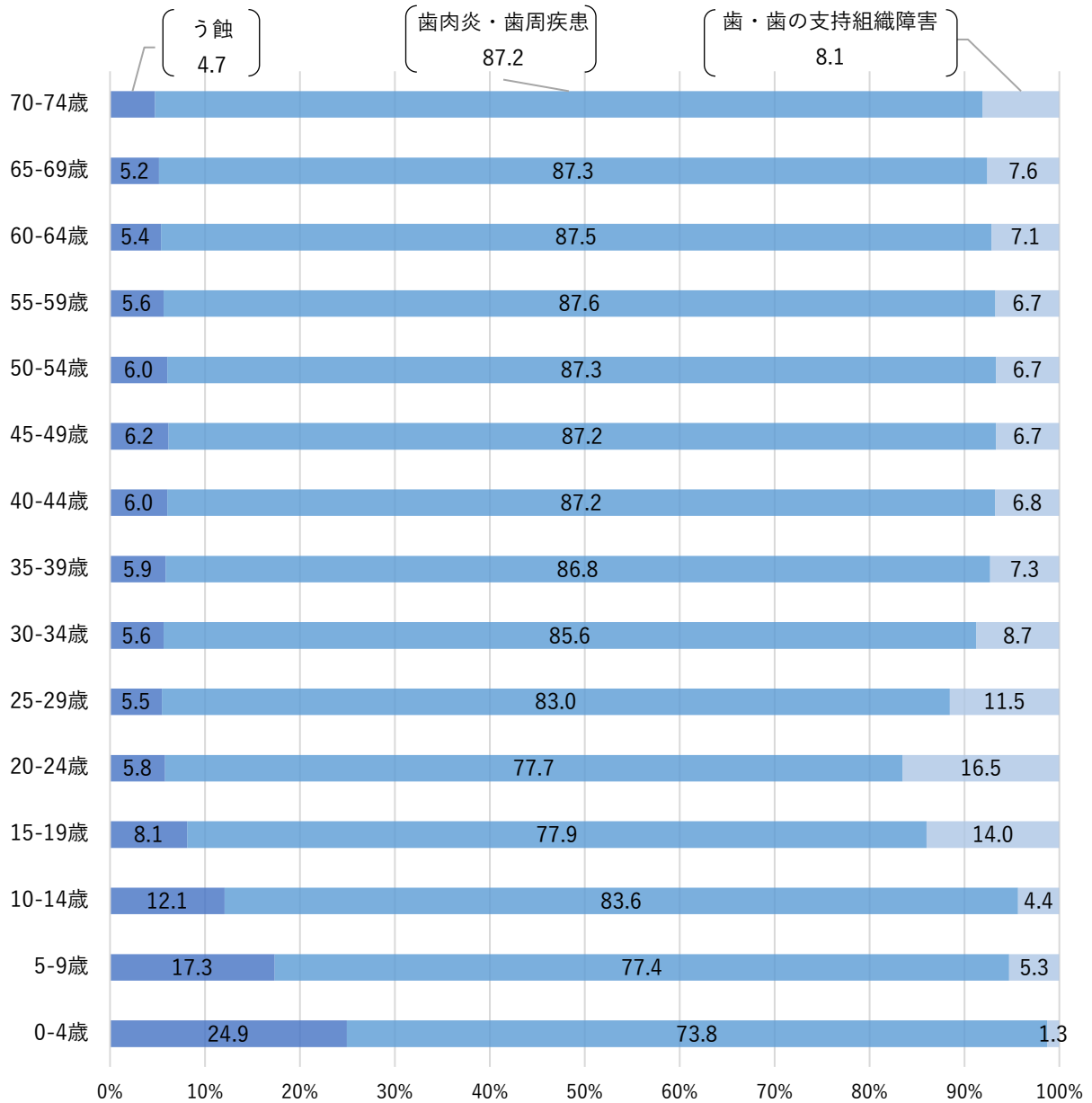
令和6年度 歯科3疾患 年齢階層別 加入者1人当たり医療費（円）

*) カッコ内の数値は3疾患合計の加入者1人当たり医療費である。



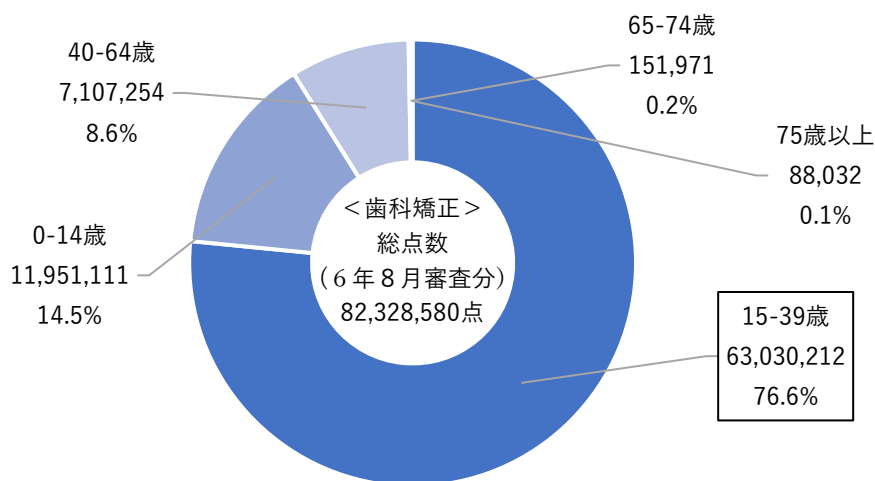
【参考】

令和 6 年度 歯科 3 疾患 年齢階層別 医療費構成割合(%)



【参考】社会医療診療行為別統計（令和6年8月審査分）：

年齢階層別 歯科矯正 点数及び構成割合



年齢階層別「歯科」診療行為別点数（令和6年8月審査分）

	0～14 歳	15～39 歳	40～64 歳	65～74 歳	75 歳以上
総数	2,633,913,128	4,927,560,741	9,794,262,087	4,670,014,989	6,545,815,374
初・再診	509,509,507	659,395,200	1,183,192,029	527,555,467	628,401,738
医学管理等	573,590,410	669,564,200	1,413,295,765	695,664,890	815,358,022
在宅医療	3,834,993	19,611,389	66,067,625	72,422,213	787,263,028
検査	182,570,668	471,721,736	876,542,758	351,199,657	363,432,518
画像診断	109,806,608	359,207,246	462,827,336	159,792,514	166,590,325
投薬	9,580,409	46,111,774	86,166,035	43,408,130	56,392,087
注射	345,452	3,550,640	8,936,930	7,520,334	11,600,626
リハビリテーション	12,397,425	2,797,341	48,287,829	89,364,250	213,340,677
処置	734,481,167	1,075,532,940	2,198,072,278	924,434,792	1,043,607,599
手術	49,411,320	236,039,307	215,651,519	104,745,642	133,668,194
麻酔	19,231,279	51,772,759	36,312,197	10,743,989	11,692,861
放射線治療	-	85,370	1,358,870	1,751,936	2,540,400
歯冠修復及び欠損補綴	389,272,468	1,167,115,734	3,108,441,984	1,639,134,716	2,232,700,157
歯科矯正	11,951,111	63,030,212	7,107,254	151,971	88,032
病理診断	761,705	3,146,920	8,055,445	4,115,305	5,402,815
入院料等	21,568,217	89,653,887	59,981,614	30,943,233	58,156,029

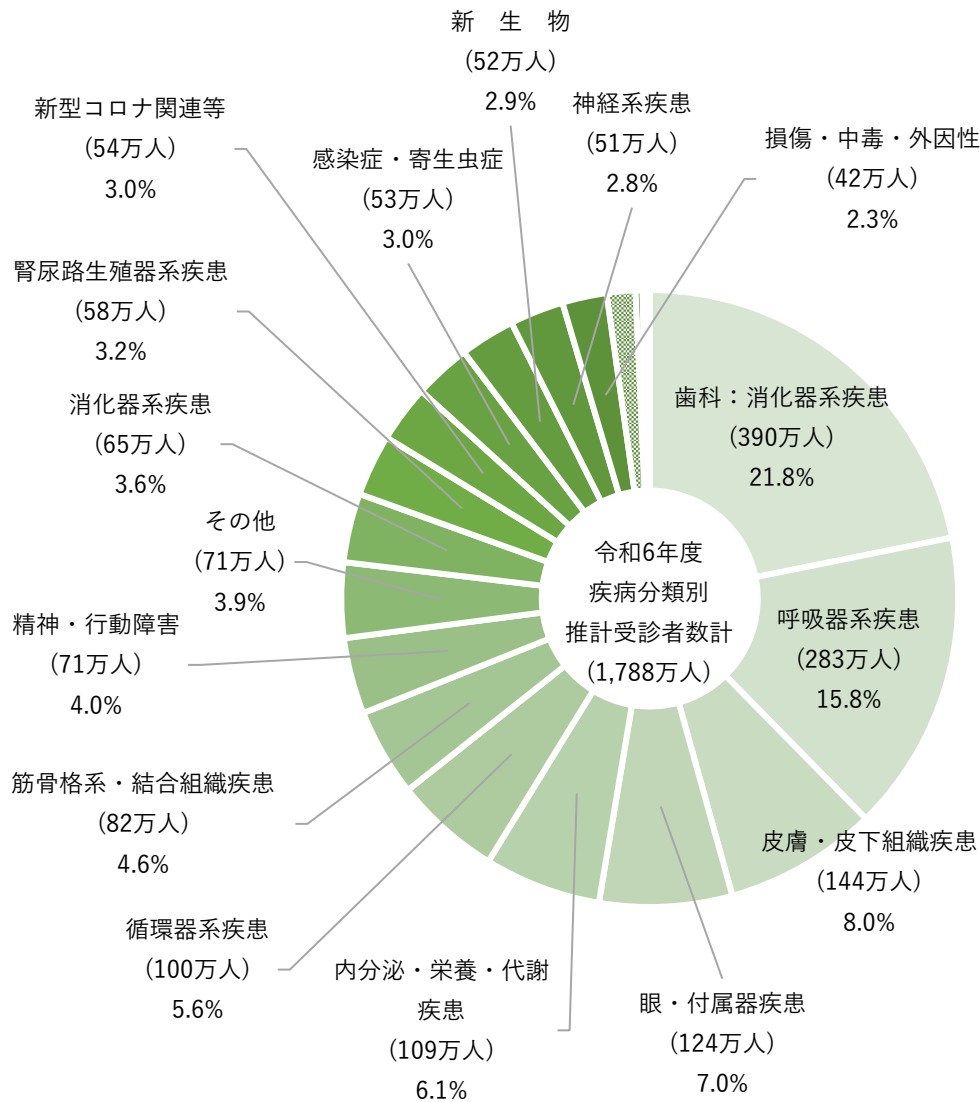
資料：厚生労働省「令和6年社会医療診療行為別統計」、統計表「第13：歯科の診療行為別点数、一般医療-後期医療・年齢階級別」をもとに作成。

3. 疾病 19 分類別にみた「歯科：消化器系疾患」の受診状況

(1) 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

- 疾病分類別推計受診者数（医科・歯科²計）の構成割合をみると、「歯科：消化器系疾患」（以下、「歯科」という）は 21.8%（390 万人）と最も大きく、次いで、呼吸器系疾患：15.8%（283 万人）、皮膚・皮下組織疾患：8.0%（144 万人） — となっている。

令和6年度 疾病分類別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合



² 本調査における文中及び表中の「歯科」は、＜歯科＞の疾病 19 分類のうち、「消化器系疾患」を指している（詳細は p.2「本調査における留意点及び用語の定義」1.を参照）。

(2) 加入者 1,000 人当たり受診者数 (年度平均)

- 疾病 19 分類 (医科・歯科) 計でみると、「歯科」が 152.6 人と最も多く、次いで、呼吸器系疾患：110.5 人、皮膚・皮下組織疾患：56.2 人となっている。



令和 6 年度 推計受診者数（年度平均・構成割合）及び加入者 1,000 人当たり受診者数

	推計受診者数		加入者 1,000 人当たり 受診者数（人）
	年度平均（人）	構成割合（％）	
歯科：消化器系疾患	3,902,832	21.8	152.6
感染症・寄生虫症	532,063	3.0	20.8
新 生 物	516,043	2.9	20.2
血液・造血器・免疫障害	64,453	0.4	2.5
内分泌・栄養・代謝疾患	1,094,650	6.1	42.8
精神・行動障害	714,120	4.0	27.9
神経系疾患	505,427	2.8	19.8
眼・付属器疾患	1,243,334	7.0	48.6
耳・乳様突起疾患	268,881	1.5	10.5
循環器系疾患	997,375	5.6	39.0
呼吸器系疾患	2,825,863	15.8	110.5
消化器系疾患	646,077	3.6	25.3
皮膚・皮下組織疾患	1,437,130	8.0	56.2
筋骨格系・結合組織疾患	823,406	4.6	32.2
腎尿路生殖器系疾患	579,573	3.2	22.7
妊娠・分娩・産じょく	34,623	0.2	1.4
周産期発生病態	4,041	0.0	0.2
先天奇形変形・染色体異常	27,869	0.2	1.1
損傷・中毒・外因性	416,593	2.3	16.3
新型コロナ関連等	535,440	3.0	20.9
その他	705,229	3.9	27.6
計	17,875,021	100.0	699.1

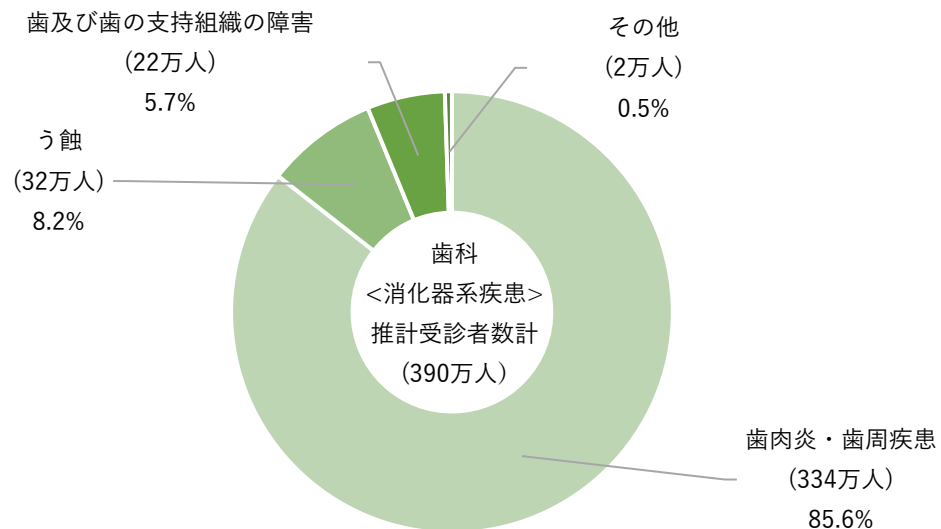
注）円グラフ（p.19）及び表中の「その他」は、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」である。

4. 歯科3疾患（う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害）の受診状況

（1）推計受診者数（年度平均）及び構成割合

- 「歯科：消化器系疾患」の疾患別推計受診者数の構成割合をみると、歯肉炎・歯周疾患が 85.6%（334 万人）と最も高く、次いで、う蝕：8.2%（32 万人）、歯及び歯の支持組織の障害：5.7%（22 万人） —となっている。

令和6年度 歯科：消化器系疾患別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合



（2）加入者1,000人当たり受診者数（年度平均）

- 歯肉炎・歯周疾患が 130.6 人と最も多く、次いで、う蝕：12.6 人、歯及び歯の支持組織の障害：8.7 人。



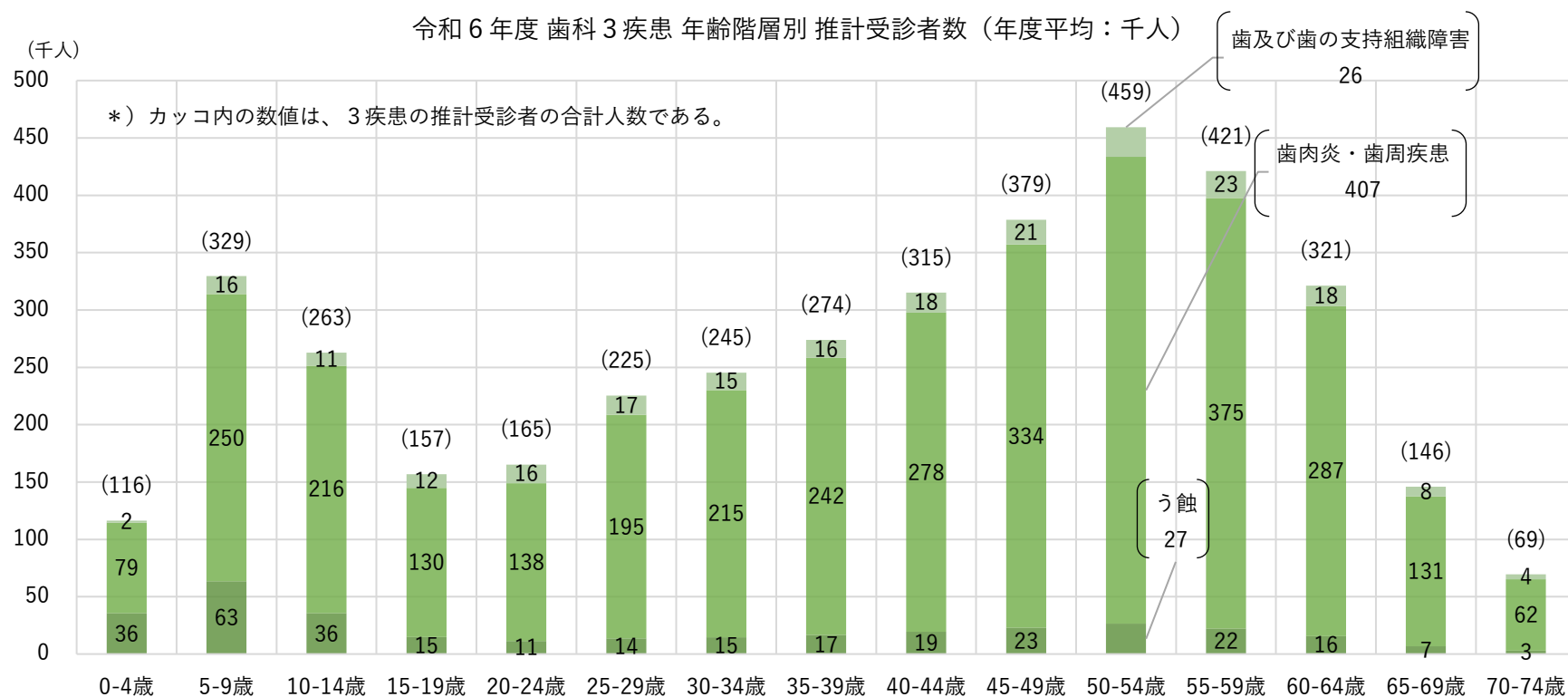
推計受診者数及び加入者1,000人当たり受診者数

	推計受診者数（年度平均） （人）	加入者1,000人当たり 受診者数（人）
う蝕	323,210	12.6
歯肉炎・歯周疾患	3,340,116	130.6
歯及び歯の支持組織の障害	222,964	8.7

(3) 年齢階層別にみた推計受診者数

1) 推計受診者数（年度平均）

- 年齢階層別に歯科3疾患計の推計受診者数をみると、50-54歳（45万9,299人）が最も多く、次いで、55-59歳（42万1,061人）、45-49歳（37万8,528人）となっている。
- 総数が最も多い50-54歳の3疾患別推計受診者数をみると、歯肉炎・歯周疾患（40万6,861人）が最も多く、次いで、う蝕（2万6,589人）、歯及び歯の支持組織の障害（2万5,849人）となっている。



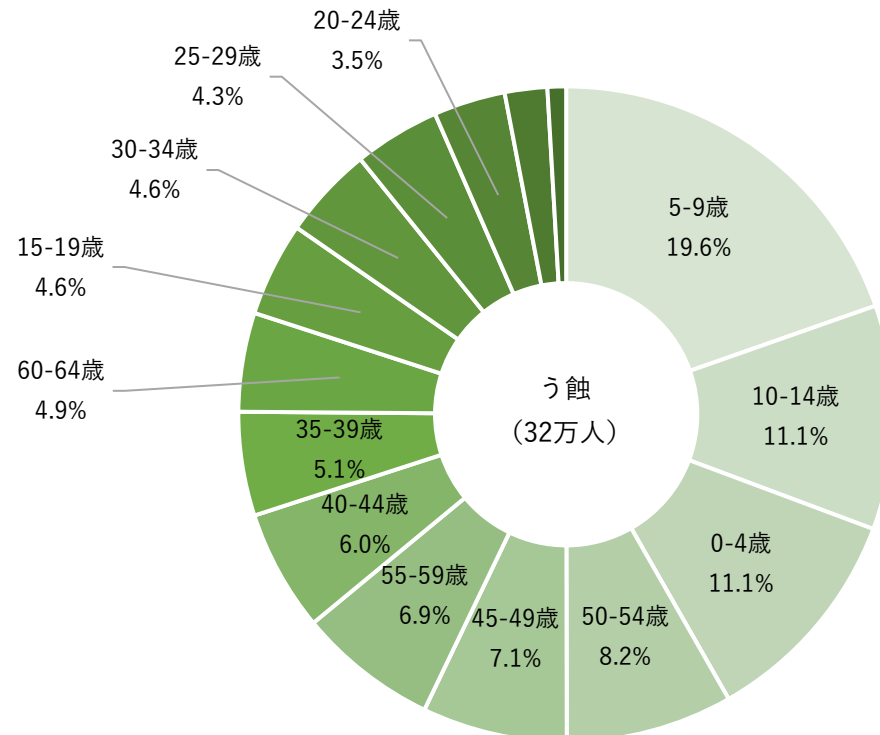
2) 3疾患別にみた年齢階層別推計受診者数の構成割合

① う蝕

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、5-9歳が19.6%（6万3,438人）と最も高く、次いで、10-14歳：11.1%（3万5,755人）、0-4歳：11.1%（3万5,723人）、一となっており、乳幼児及び未就学児（0-14歳）が全体の約4割を占める。

令和6年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

【う蝕】



	推計受診者数（人）	構成割合（%）
70-74歳	2,964	0.9
65-69歳	6,770	2.1
60-64歳	15,769	4.9
55-59歳	22,290	6.9
50-54歳	26,589	8.2
45-49歳	23,101	7.1
40-44歳	19,340	6.0
35-39歳	16,549	5.1
30-34歳	14,713	4.6
25-29歳	13,744	4.3
20-24歳	11,442	3.5
15-19歳	15,001	4.6
10-14歳	35,755	11.1
5-9歳	63,438	19.6
0-4歳	35,723	11.1
計	323,187	100.0

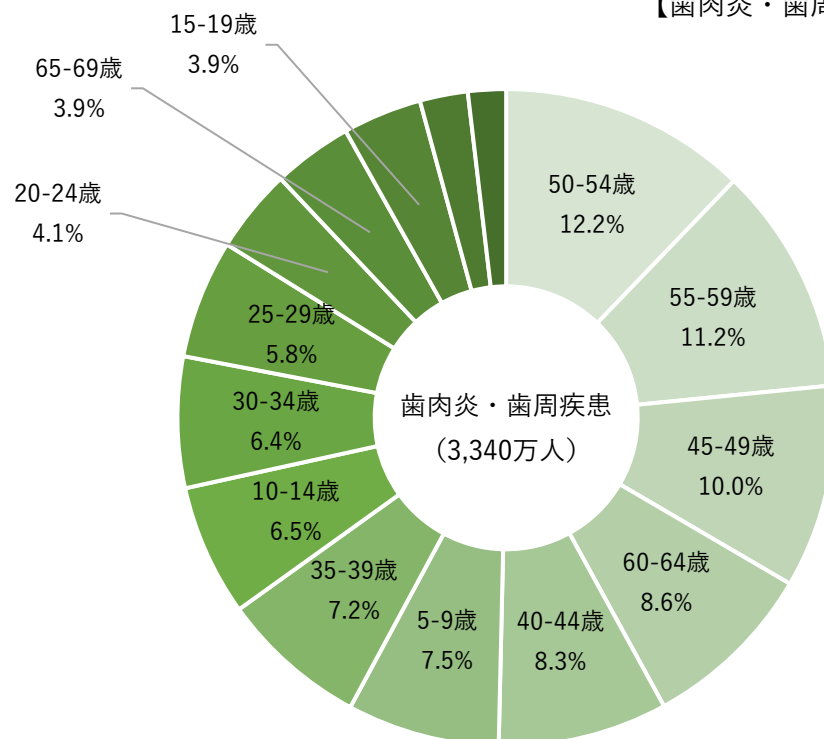
*）年齢階層ごとに推計受診者数（年度平均）を算出しているため、合計が一致しない（以下、同じ）。

② 歯肉炎・歯周疾患

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、50-54 歳が 12.2%（40 万 6,861 人）と最も高く、次いで、55-59 歳：11.2%（37 万 5,378 人）、45-49 歳：10.0%（33 万 4,023 人） — となっており、40～50 歳台で全体の約 4 割を占める。

令和 6 年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

【歯肉炎・歯周疾患】



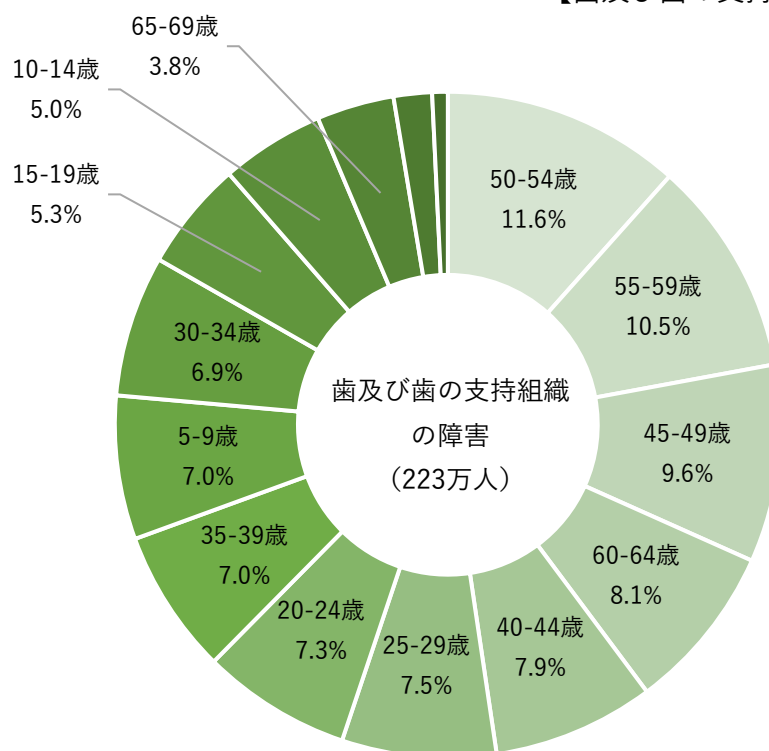
	推計受診者数（人）	構成割合（％）
70-74 歳	62,342	1.9
65-69 歳	130,855	3.9
60-64 歳	287,381	8.6
55-59 歳	375,378	11.2
50-54 歳	406,861	12.2
45-49 歳	334,023	10.0
40-44 歳	278,377	8.3
35-39 歳	241,638	7.2
30-34 歳	215,402	6.4
25-29 歳	194,806	5.8
20-24 歳	137,602	4.1
15-19 歳	130,007	3.9
10-14 歳	215,754	6.5
5-9 歳	250,440	7.5
0-4 歳	78,811	2.4
計	3,339,677	100.0

③ 歯及び歯の支持組織の障害

- 推計受診者数（年度平均）を年齢階層別にみると、50-54 歳が 11.6%（2 万 5,849 人）と最も高く、次いで、55-59 歳：10.5%（2 万 3,393 人）、45-49 歳：9.6%（2 万 1,404 人） — となっており、40～50 歳台で全体の約 4 割を占める。

令和 6 年度 年齢階層別 推計受診者数（年度平均）及び構成割合

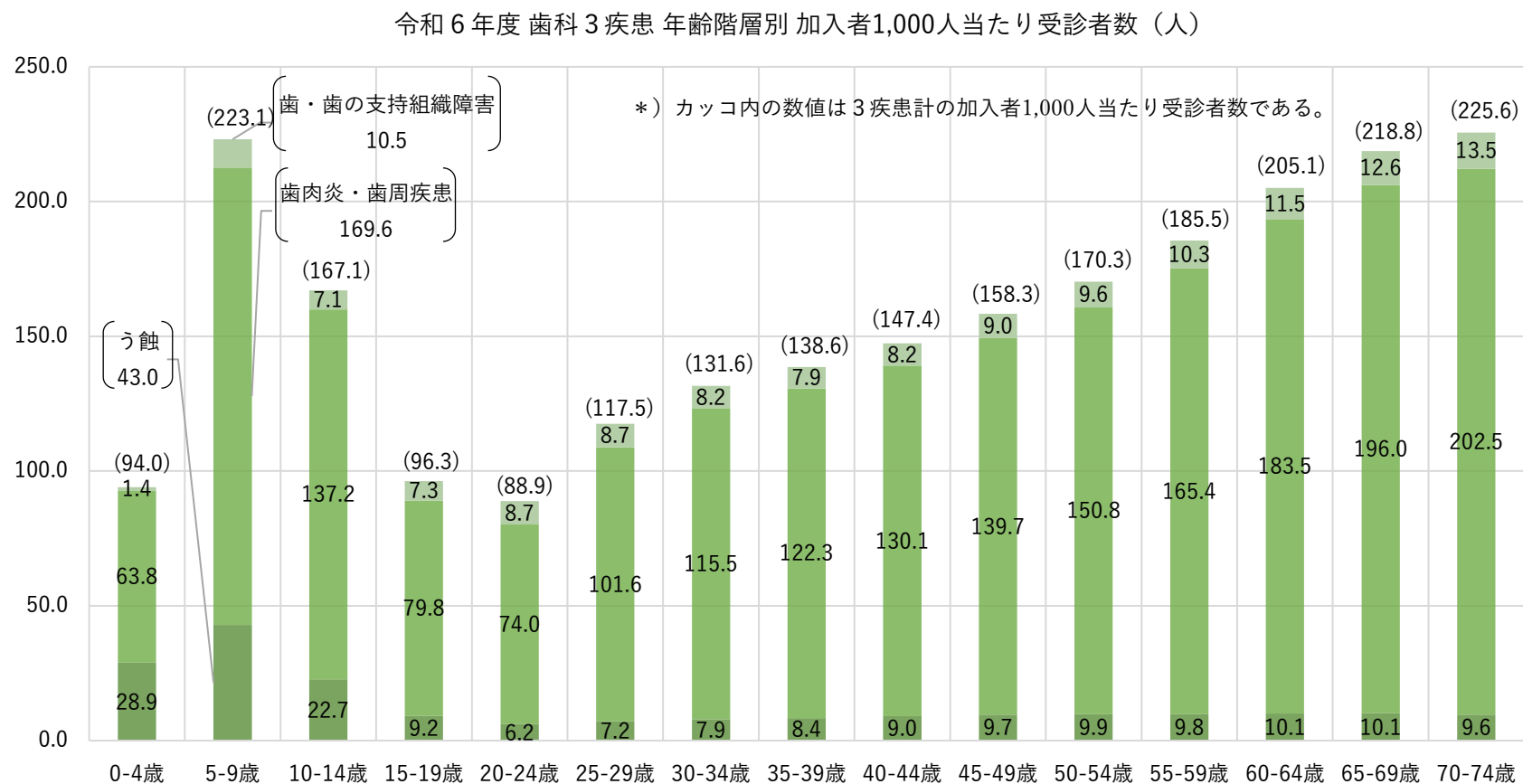
【歯及び歯の支持組織の障害】



	推計受診者数（人）	構成割合（%）
70-74 歳	4,149	1.9
65-69 歳	8,386	3.8
60-64 歳	18,084	8.1
55-59 歳	23,393	10.5
50-54 歳	25,849	11.6
45-49 歳	21,404	9.6
40-44 歳	17,505	7.9
35-39 歳	15,662	7.0
30-34 歳	15,286	6.9
25-29 歳	16,701	7.5
20-24 歳	16,188	7.3
15-19 歳	11,853	5.3
10-14 歳	11,223	5.0
5-9 歳	15,559	7.0
0-4 歳	1,685	0.8
計	222,925	100.0

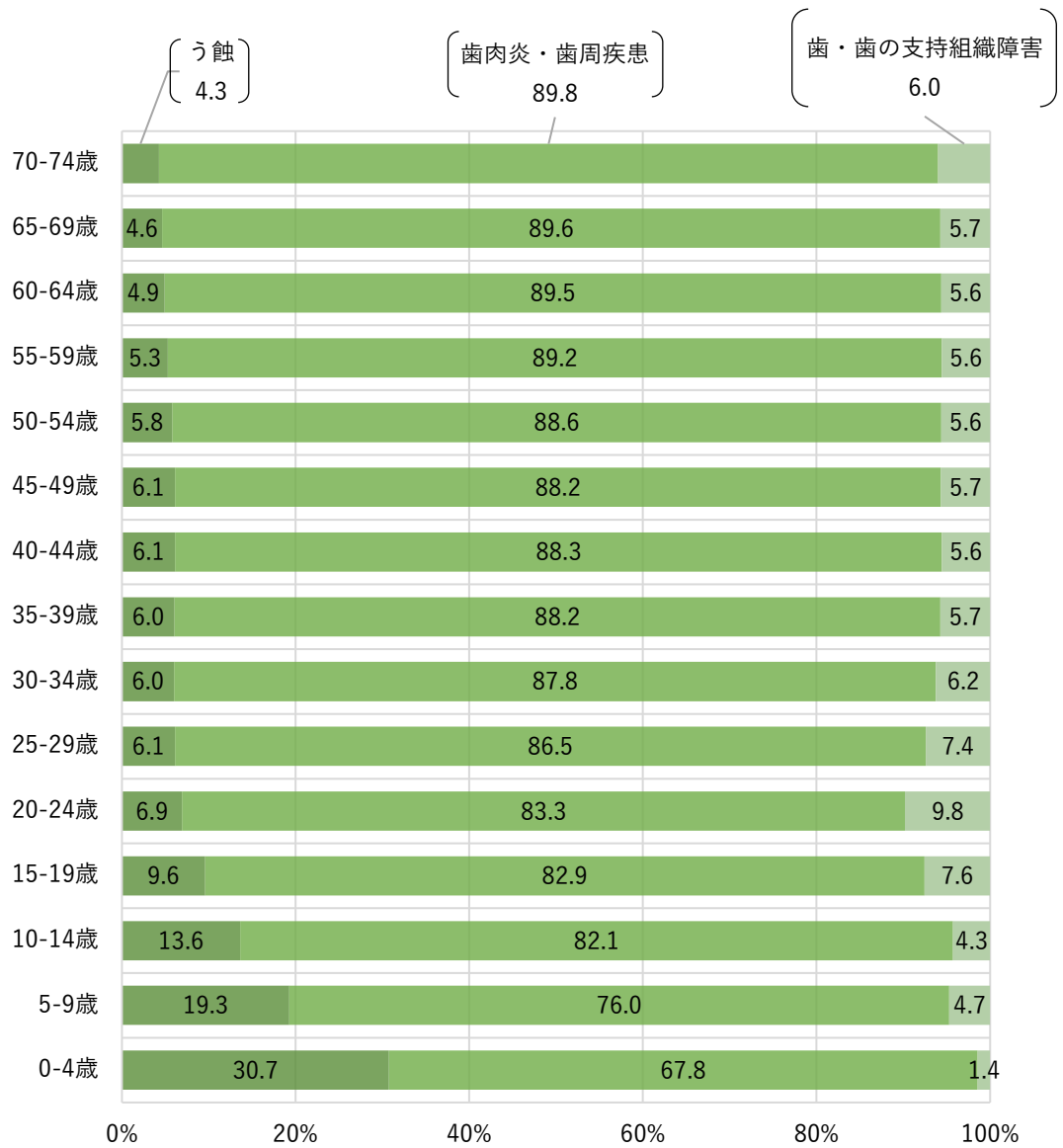
(4) 加入者 1,000 人当たり受診者数 (年度平均)

- 歯科 3 疾患計の加入者 1,000 人当たり受診者数を年齢階層別にみると、5-9 歳が最も多く、20 歳以降、年齢とともに多くなる。
- また、どの年齢階層においても歯肉炎及び歯周疾患の割合が約 7 ～ 8 割以上を占め (p.28 【参考】)、う蝕の割合は 0-9 歳でとくに高く、歯及び歯の支持組織の割合は 20-24 歳の 9.8% と最も高い。



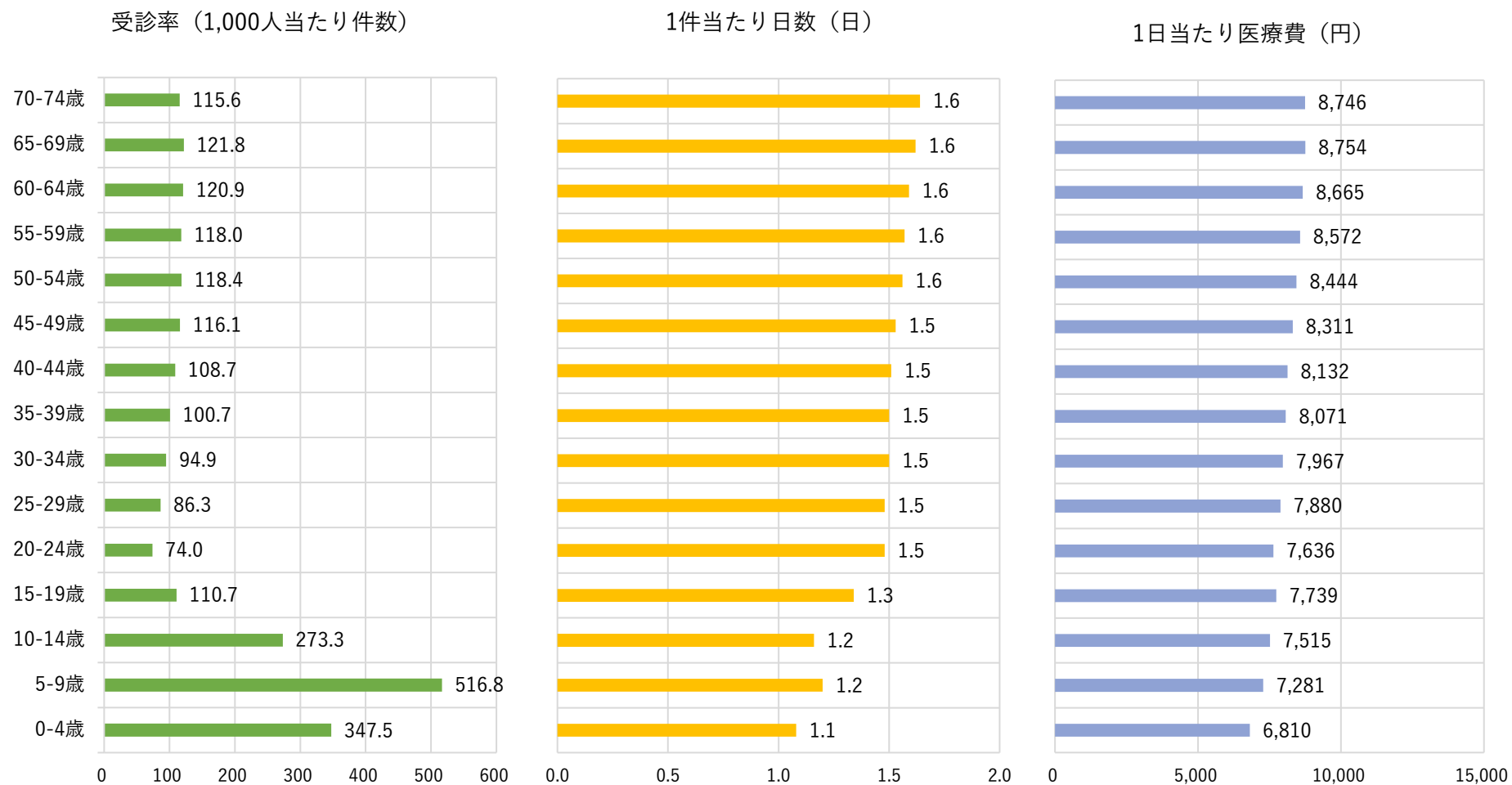
【参考】

令和6年度 歯科3疾患 受診者数 構成割合(%)



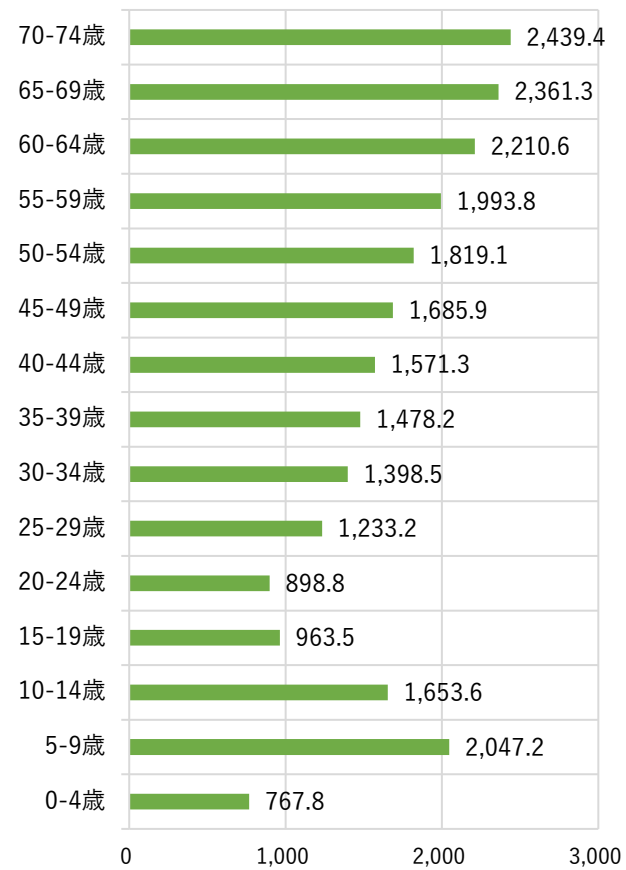
【参考】 歯科 3 疾患別にみた医療費 3 要素分解

【う蝕】

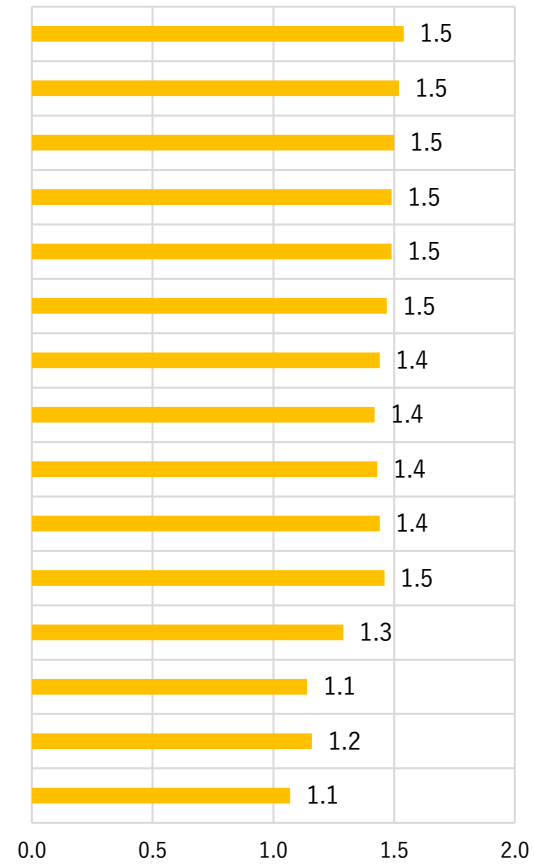


【歯肉炎・歯周疾患】

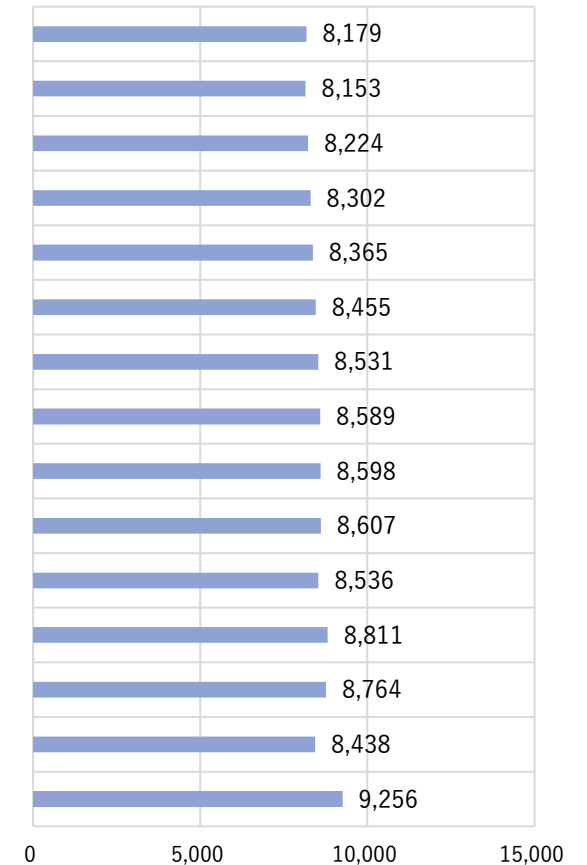
受診率（1,000人当たり件数）



1件当たり日数（日）

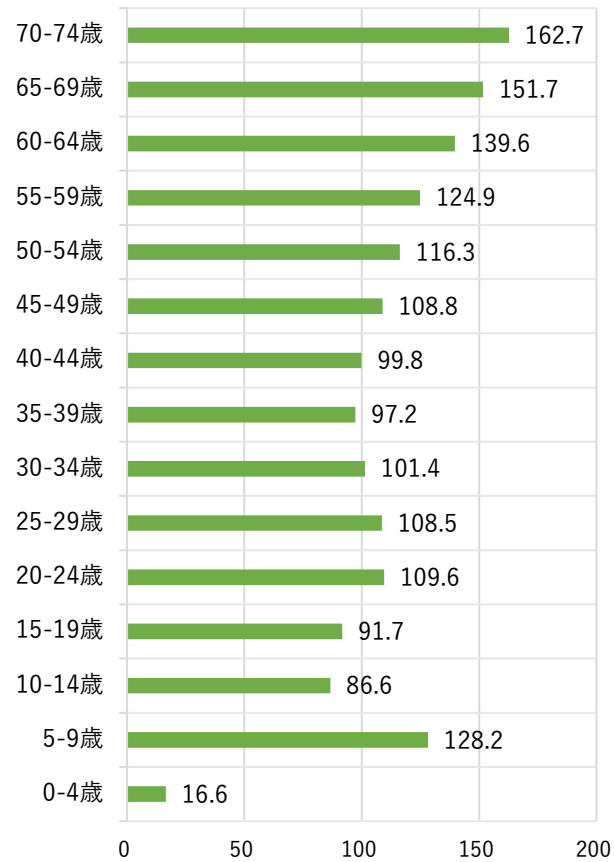


1日当たり医療費（円）

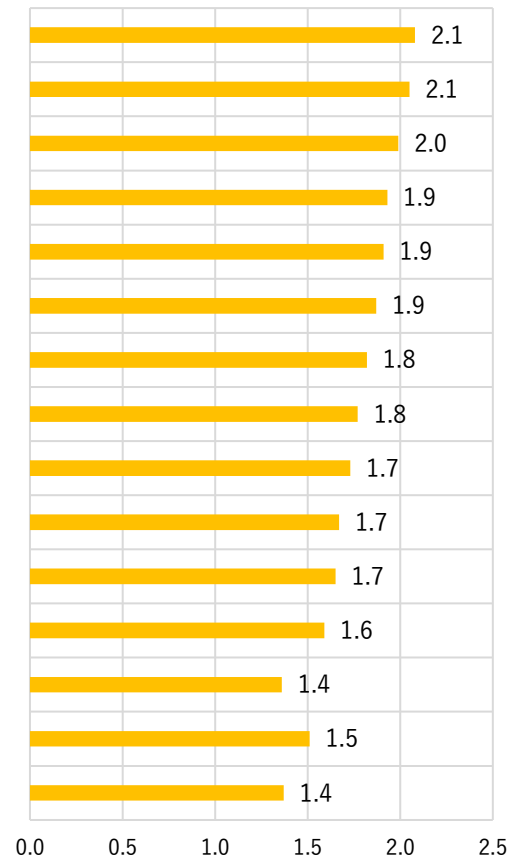


【歯及び歯の支持組織の障害】

受診率（1,000人当たり件数）



1件当たり日数（日）



1日当たり医療費（円）

